
逃走中in金の町

ゲームマスター サイコ・ハロ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

逃走中in金の町

【Nコード】

N4696X

【作者名】

ゲームマスター サイコ・ハロ

【あらすじ】

ポケモン軍がイッシュを侵略後、作者が懲りずにまたもや逃走中開始！果たして逃げ切るのは誰だ！

突然ですが、西エリア逃走者にテツカニンを追加。

逃走者紹介（2人追加）（前書き）

2回以上逃走者を数え間違いをしているのに投稿。全く、懲りない奴である。

逃走者にテッカニンとミュウツーを追加。

逃走者紹介（2人追加）

西エリア逃走者

ルイージ ロクな目に遭わないマリオの弟。だが、何だかんだで愛されているし、主役経験も有り。足はマリオより速い。ミッションは行く。

キノヤマー 結構昔からマリオ達と知り合っているキノピオ。策士でもある男。足は普通より僅かに速い。ミッションは基本行かない。

エスカルゴン DDDの側近の毒舌蝸牛^{ドクゼツカタツムリ}。足は普通。ミッションは行かないに決まってるでGES（理由、面倒だから）。因みに、マガルゴとは似てるが関係ない。

のび太 ご存知元祖ダメガネ（2号と3号は言うまでもない）。足はクツパ以下DDDD以上。ミッションはその時による。

ジャイアン 『お前の物は俺の物』で有名な永遠のガキ大将。足はエスカルゴンより少し速い。ミッションは行く。

テツカニン 最強の足を持つポケモン。非常に速度は速くミッションにも行く心算。

静香 ススキケ原裏のガキ大将と呼ばれる人物。足はかなり速い。ミッシヨンは気分次第。恐らく、と言うか絶対ジャイアンより強い。何てったってペチ！バリバリガリガリと言う音で某N太をボコボコにしてるのだから。

安雄 ご存知名脇役コンビの1人。覚え辛い人は『何時も帽子被ってる奴』と覚えれば良い筈。足は普通。ミッシヨンは目立ちたいので行く。

ゲベ 一応猫と思われるが猫かどうかは非常に怪しい。足は速い。ミッシヨンは金が絡まないと行かない。

ワルイージ ガリガリのあいつ。足は体がアンバランスなのでいまいち。ミッシヨンは金が絡まないと行かな（ry

エルレイド ガブリアスの部下だがいまいち影が薄い。足は普通。ミッシヨンは行く。最近、突っ込み役になりつつある、と言うか完全に突っ込み役。

ポリゴンZ 不幸な目に遭った伝説のあの人の一族。足は鍛えたので結構速い。ミッシヨンは金が絡まないと行か（ry 因みに、『怨念』と『恨み』と『大地の力』を覚えており、性格もポケダン仕様なのでとんでもない凶ポケに（ry さあポリゴンZくん、その

大地の力でクソネズミばかり使ってくる犬畜生を叩き潰せ！頑張れポリゴン！負けるなポリゴン！え、逃走者紹介と関係ないって？それもそうだな……

ドククラゲ 初代では何気に強かったライチュウの部下。足は微妙に遅い。ミッシオンは面倒なので行かない。本人はルンパツパを潰せる事をアピールしている。

ゲンガー 今でも中々強いライチュウの部下。足は普通が50としたらゲンガーは53である。ミッシオンは金が絡まないと行（ry

キノピオ 前回から参戦したいたストDSで出てくるキノピオ。足は普通。ミッシオンは行く。一応突っ込み担当だよ？

キノックル 初参戦のキノピオ。登場作品は『マリオ&ルイージRPG2』、『マリオ&ルイージRPG3!!!』。足は微妙に速い。ミッシオンは行く。

カメックババ クツパの側近のカメック。個人的にはエスカルゴンと仲良くなりそうな気がするのは気のせいかな？足は遅い。ミッシオンは基本行かない。

東エリア逃走者

マリオ 主人公（多分）。足は普通。ミッションは金が絡まないと（ry

ヨッシー 緑の大食い恐竜。足は速い。ミッションは基本金が絡まないと行かない。

ライチユウ 作者の小説のメインキャラの1人。足はまあまあと言った所か。ミッションは金が絡まない（ry

ガブリアス ライチユウと同じく、メインキャラの1人。足はヨッシーと同じ位。前は裏切り者として暗躍した。ミッションは金が絡まないと（ry 後6V。

ドータクン ガブリアスの部下だがエルレイドと同じく影が薄い。足はのび犬以上クツパ以下。ミッションは捕まったら嫌なので行かない。

ミュウツー ポケモン軍の実質的指導者。足は多分速いと思う。ミッションは多分行かない。

じくさん 一緒に居るとでんぢやらすな事しか起きない困った人（と言うか本人がでんぢやらすな事を起こす）。足は意外と速い？ミッションは金が絡まないと（ry

元校長 ミュミヤリヤ（ry）。足は異常に遅い。ミッションは当然行かない。

DDD ププランドの『自称』大王。足は全逃走者の中で最も遅い。ミッションは行かない。

クツパ 『自称』キノコ王国の国民。足はのび太程ではないが遅い。ミッションは面倒なので行かない。

ワリオ メタボのトレジャーハンターであり会社の社長。足はクツパよりは速いが遅い。ミッションは金が絡（ry）

ドラえもん 蒼い猫型ロボット。足は体型のせい微妙に遅い。ミッションは金が（ry）

スネ夫 髪がどうやってたらあんな風になるのか分からない人。足は普通より遅い。ミッションは当然行かない。性格のせいで嫌われまくっているが、作者は擁護しない。

出木杉 クラス1の秀才。何でも家庭教師をしており小学生かどうかも怪しい人物。足は結構速い。ミッションは行く。

はる夫 名脇役コンビの1人。よく分からない人は『一寸小太りの奴』と覚えれば分かりやすいだろう。
足は遅い。ミッションはその時による。

キノじい ピーチの側近。杖をバット代わりに野球に参戦したりしてる元気なお方。足は遅いがミッションは分からない。

ワドルドゥ DDDの部下。エスカルゴンより忠誠心は高いが政權転覆を目論んだ事も。足は普通。ミッションはやりたいたので行く。
前回は裏切り者の最初の犠牲者となったが……？

次回、今までとは違うネタ切れ作者が頭を捻って考えた作者オリジナルのオープニングゲームが始まる！

続く

逃走者紹介（2人追加）（後書き）

次回、新オープニングゲーム！？

オープニングゲーム（前編）（前書き）

オリジナル新作オープニングゲーム開始！？

オープニングゲーム（前編）

金の町と言う場所に集められた17名の逃走者達……

「緊張するな……」

と言いながら初台詞を華麗に奪う安雄。侮れない奴である。

『これより、オープニングゲームを始める……上空のモニターに書いてある1〜6のトランプが有るだろう……その内1つはハンター放出のハズレだ……』

ザワ……ザワ……

では、オープニングゲームのルールを説明しよう。

逃走者の上にあるモニターには、1〜6までの数字が書かれたトランプがある。

その内、1つは、常にハズレが混ざっている。

逃走者達は、ボックス左横に有る小型モニターから、1〜6の数字が書かれたトランプを1つ選択する。

今回は、セーフでも、その場に待機する事になっている。

全逃走者がハズレを引かなかった場合、2巡目へと突入する。

『しかし、今回このゲームに参加するのは、君達だけではない……』

「え!？」

すると、ハンターボックスの右に置かれていた小型モニターが、突如発光した。其処には、別の逃走者達17人が現れたではないか!

「おい、どう言う事だよ!？」

突然の事態に驚くワルイージ。

「それはコッチの台詞だ!」

マリオが怒鳴り返す。

実は今回、西エリアと東エリアの2つのエリアと、2つのステージが存在する。

双方で、オープニングゲームを行い合い、ハンターを放出させてしまったエリアが、1stステージとなる。

一方、ハンターを放出させなかったエリアの逃走者は、無条件で2ndステージへ進める。

ハンターを放出させてしまったエリアの逃走者達は、55分間の1stステージを逃げ切らなければ、2ndステージへ進む事は出来ない。

130分間の2ndステージを逃げ切ると、漸く賞金444万円が獲得出来る。

因みに、賞金は1秒400円ずつ上昇する。

両エリアの代表である、ルイージとマリオがジャンケンをする。

その結果、ルイージはチョキを、マリオはグーを出し、ジャンケン

対決には東エリアが勝利した。

「ちょ、此処で負けんなよ！」

エルレイドの野次で、西エリアの者達は一斉にルイージを怒鳴る。
ブログ等言えば、炎上状態だ。

勝った東エリアは何故か先攻を選択。

東エリア1人目 クツパ

「引くカードは……3だ！」

ピッ

そのカードの中身は……

『セーフだ……』

西エリア1人目 ルイージ

「間違えてもハズレは引くなよ！」

エルレイドが野次とも取れる発言をする。

「誰が引くか！勿論、選ぶのは4だ！」

「おい、4て死じゃねえか！」

エルレイドが怒鳴るも、ルイージはそれを無視して4を選択。

その結果は……

『セーフだ……』

東エリア2人目 ヨッシー

「何を引くんだ？」

ヨッシーに質問するマリオ。

「5です」

ピッ

ヨッシーが5を選択すると……

『当たり前だ。アイテムを提供しよう……』

すると、ヨッシーの手に、『双眼鏡』が現れる。

『最大20倍ズームでハンターも見えるぞ……』

「やりましたあー！」

ヨッシーは双眼鏡を手に入れ大喜びしている。

西エリア2人目 安雄

「取り敢えず、無難な2にする」

何故か2を選ぶ安雄。

中身は……？

『セーフだ……』

「な、無難だったろ？」

全員に自慢する安雄。この後、『何処が無難なのやら……』的な反応をされたのは言うまでも無い。

東エリア3人目 ガブリアス

「何選ぶんだ？」

ドラえもんがガブリアスに聞く。

「6だ」

ピッ

6を選択するガブリアス。果たして……

『セーフだ……』

「よっしゃああ!!」

ガッツポーズをするガブリアス。

西エリア3人目 ゲベ

「俺は絶対1だ!」

人の意見を全く聞かず、1を選ぶゲベ。

ピッ

カードの中身は……

『セーフだ……』

「よっしゃー！」

やはり、喜ぶgeb。

東エリア 西エリア

続いて、ドラえもん・ゲンガーもクリア

マリオ・エルレイドもクリア

出木杉・静香もクリア

ドータクン・ドククラゲもクリア

東エリア8人目 ミュウツー

「私は、5だ」

理由を言わず、5を選ぶミュウツー。

カードの中身は……

『セーフだ……』

果たして、何時オープニングゲームは終るのか!?

続く

オープニングゲーム（前編）（後書き）

先にハンターを放出させてしまうエリアはどちらだ!？

オープニングゲーム(後編) ハンター放出!(前書き)

やはり短い

オープニングゲーム（後編） ハンター放出！

西エリア8人目 キノックル

「引くのは、5です！」

やはり、何も理由を告げず、5を選ぶキノックル。

カードの中身は……

『セーフだ……』

東エリア8人目 DDD

「そりゃあ大王は1に決まっとるZOY！」

そう言って1を選ぶDDD。

果たして……

エリア別に纏めると、タワーエリア、住宅エリア、巨大商店街エリア、新興住宅エリアの4つのエリアが有る。(商店街エリアの長さ
は、某の商店街程度である)

真、王の圧政に反抗した住民により、新興住宅エリアは現在バリケードにより封鎖されている。

因みに、新興住宅エリアは住宅エリアからのみ入れる。

「ん？あれってバリケードだな……」

バリケードを見つけたガブリアス。

では、誰が何処に行ったかを纏めて見よう。

タワー

ドータクン はる夫 クツパ ドラえもん

商店街エリア

マリオ ワリオ ヨッシー ライチユウ スネ夫 元校長

住宅エリア

ガブリアス 出木杉 ミユウツウ キノじい ワドルドゥ

以上だ。

その頃、西エリアは……

「良かったでゲス……やっぱり陛下が引いたでゲスな…… W W」

内心 D D D を嘲笑う エスカルゴン。 貴様それでも部下か Z O Y ! ?

其処へモニターが……

『俺だ、サイコハロだ。この55分間暇だろうから、コーヒーとホットケーキでも持って行こうと思ってる。コーヒーは砂糖付きかブラックか無糖か選べるぞ。ブラックに砂糖付きつても O K だ』

西エリアから凄まじい歓声が挙がる。

因みに、コーヒーは砂糖付きが2人、ブラックが7人、無糖が4人、
ブラックに砂糖付きが1人だった。ブラック大人気だなおいw

「ブラックコーヒーは旨いでゲスなあ……」

絶妙な味付けにジーンと来てるエスカルゴン。

こんな人達を書いていたら逃走中では無く珈琲中なので、話を元に
戻す。

「何でコッチが出したんだろうな……？向こうにはのび犬が居るの
に……」

ガブリアスは何故相手が1stステージを免除されたのか理解出来
ない。

「何でコッチが放出されるんだよ……普通放出されるのはのび犬が
居る西側だろ！」

滅茶苦茶な理由で怒るドラえもん。

其処へ、黒い影……

「あの蒼くて達磨の様な体……ドラえもんか！」

見つかった……

「ゲツ、ハンター!？」

ハンターの黒い姿を見たドラえもんは直ぐに逃げる。しかし、その差は徐々に縮まって行く……

しかし……

「チュウッ」

鼠だ……

「ギヤアアアアアアアアアア!!ネエエズミイイイイイイイイイイイ
イイイ!!」

鼠を見つけたドラえもんは129・3kmで逃げて行った……当然、ハンターを振り切った。

「!？」

突然の事態にハンターも驚きを隠せない。これがギャグ漫画だったら確実にグラサンを突き破って目が飛び出していただろう。

「何とか逃げれたぞ……」

ドラえもんは息を切らしている。

「兎に角、糞ハンターを撒けて良かった……」

鼠は兎も角、ハンターを撒けた事に一先ず安堵している様だ。

果たして、誰が逃げ切るのか!？

続く

オープニングゲーム(後編) ハンター放出!(後書き)

次回、4話目にして遂にミッションが始まる!

ミッション1 part1 (前書き)

4話目で漸くミッション発動!

ミッション1 part1

今回は行き成りこんな所から始まる……

<?????>

「作者に感想返信を任せられたせいで何時もの3倍忙しいぞ……！
兎に角、最初のミッション行くか！」

ピッ

サイコハロがモニターをタッチすると、エリアに6体のハンターボ
ックスが出現した……

プルルルルル プルル プル

メールだ……

「確保情報か……？ 『ミッション1 エリア内にハンターボックス
を6つ設置した。残り40分になると、6体のハンターが放出され、
ハンターは10体となる』 行き成りミッションぶつけてくるとかw
まあ俺は行かないけどw」

「『阻止するには、2人で同時にハンターボックス横のレバーを下ろさなければならぬ。但し、6つの内3つは封鎖されている新興住宅街エリアに有る為、塔で王から物体転送装置で税金を受け取らなければならぬ』面倒臭^{めんど}すぎワロタw」

マリオとガブリアスがミッションを読み上げる。しかし……

「『直、1stステージで放出されたハンターは2ndステージにも引き継がれるので気をつけたまえ!』』どつ言う事だよ!」

ミッション内容に西エリアのメンバーは激怒。

ミッション1 ハンター放出を阻止せよ!

サイコハロにより、エリアに6体のハンターボックスが設置された。残り40分になると、ボックスからハンターが解き放たれ、ハンターの数は合計で10体となる。阻止するには、2人でボックス横のレバーを下ろさなければならぬ。しかし、6つの内3つは現在封鎖されている新興住宅エリアに設置されている為、王から税金を受け取り、バリエードに持って行かなければならぬ。これだけならまだ良い、何と、この1stステージで放出されたハンターは2ndステージにも引き継がれる為、西エリアの17人にとっても他人事では無い。

「東のメンバーは金絡まないとミッション行かない奴が多いから2、3体は確実に出るな……それにしてもコーヒー旨めえ」

ブラックコーヒーを飲みながら勝手に分析を開始するキノヤマー。

「……………激しく同意」……………」

静香、ジャイアン、ドククラゲ、ゲンガー、エルレイドがキノヤマーの意見に賛同する。

それを見ていたこの男は……

「こんな状態で大丈夫なのか？まあ俺も3体位出ると思うが……………」

恐らく、安雄は今回の突っ込み役になるだろう。と言っかこれは「メディーですよ。」

その頃、東エリアでは……

「ミッションどうしようか……………取り敢えず行っとくか……………そうすれ

ば少しは有名になれるかもな……」

はる夫はミッションに参加する心算らしい。

「まずは王から税金を貰いに行こう……」

出木杉は塔へ急ぐ。

しかし……

「ミッション？何それ美味しいの？」

ドラえもんはミッションに行く気ゼロだ。全く困ったロボットである。

「ミッションか……勿論私は行かないぞ」

ミュウツーも行かない宣言である。コッチの逃走者は全くW

更に、ワリオ、ライチュウ、クッパも行かない宣言。お前等W

「こうして、キノヤマーの言いつ通りかと思いきや……」

「これはイメージアップと認知度上昇的な意味で行くべきだな……」

ドータクンはミッションに行く様だ。この男、金にがめつくさないぞ。

「私も一応ミッションに行こうと思います。前は直ぐに捕まってしまったからね……」

前は裏切り者の最初の犠牲者となったワドルドウ隊長。リベンジなるか。

「ミッションか……一応ハンターが増えたら困るしやって置くか……」

汚名返上の為かどうかは知らないが、スネ夫もミッションに行くらしい。

一方、西エリアは……

「しかし、向こうのエリア誰がミッション行くだよ……?w」

自分達の事を棚に上げてポリゴンZがモニターを見ながら東エリアを批判する。まさに『お前が言っな』。

「全くでゲスw」

エスカルゴンもポリゴンZに便乗する形で東エリアを批判する。

すると……

『お前等な、人の事言える立場か?そつちにも金絡まないと(ry
な奴居るのによくそんな事が言えますなあw』

バカにする様な口調でサイコハ口が西エリアにダメ出し。

「それを言っな!」

エルレイドがサイコハ口に突っ込む。

それに呆れたのか、サイコハ口からの返事は来なかった。

「まあ、兎に角東エリアの連中にはハンター放出を阻止して貰うと
するでゲスか」

ダメだこいつ等、完全に見物モードである。尤も、そんな事は2人
……おっと、誰か来た様だ。

では、東エリアに話を戻す。

「ミッション？俺様は金が絡まない限りミッションには行かんぞ！」

メタバ社長ワリオは勿論ミッションに行かない。

「ワガハイは勿論ミッションには行かないのじゃい！」

クソツタレ元校長。

其処へ……

「捕まるペースが前回より遅い気がするな……」

ハンター……

「わしだけが逃げ切るに決まってるんじゃない！」

大声で叫ぶバカ校長。

「元校長か！こいつは直ぐに捕まるぞ！」

ハンターだ……しかも見つかった……… W W

「ギョエエエエエ！ハンター！？」

元校長は急いで逃げるが、時既に遅し、最早逃走不可能……

「ギャピイイイイ！」

ポンッ

1stステージ残り時間49分54秒 元校長確保 東エリア残り
15人

「そ、そんな筈は……」

校長らしい確保のされ方だ……

プルルルルル プルルルルル

「メールか……」商店街エリアにて元校長確保、残り15人『早速
校長が捕まったぞ……www』

じくさんは内心元校長を嘲笑う（ゲベも嘲笑っていたらしい）。

「あんな奴捕まっても影響何か無い……急ごう！」

何気に事実を発し、スネ夫は塔へと走る（実はスネ夫は喧嘩でのび
犬とのタイムン勝負で圧勝してますよ）。

その2分後、真っ先に塔に到着したのは……

「良し！」

出木杉だ……

「急いじ……」

出木杉は急いでエレベーターに乗り込み、最上階へ向う。

「着いた……此処か！」

エレベーターを降りると、其処には巨大な装置が有った。

出木杉は装置を起動させ、王と話そうとする。

「あの……税金を届けてこようと思って来たんですけど……」

装置に居る王に話し掛ける出木杉。

「おお、本当か！我々が言っても住民に追いつかれるんでな、頼むぞ！」（演、ゴッドハロ）

ゴッドハ口演じる王は出木杉の頼みを承諾、早速税金の入った袋を出木杉に届ける。

「有難う御座います！」

再び、出木杉は住宅エリアに向けて走り出したのだ……

その頃……

「お、此処だな！」

はる夫とドータクンが何時の間にか合流していたのだ。2人は装置を見つけ、早速レバーを下ろす。

ガコン！

ハンター封印 残りボックスハンター5体

はる夫とドータクンにより、1体のハンターが封印された。

ミッション残り時間は6分27秒！

果たして、全てのハンターを封印する事は出来るのか！？

続く

ミッション1 part1 (後書き)

<西エリアトーク>

エルレイド「これ間に合うのか？」

ゲンガー「敢えて言おう、間に合わない！」

ミッション1 part2(前書き)

金目当ての逃走者が多い東エリアの逃走者はハンター放出を阻止出来るのだろうか？

ミッション1 part 2

「私の読みでは商店街エリアに1つボックスが設置されていただろ？だから住宅エリアとタワーに設置されていると思うんだよ……多分税金届けに行くのは出木杉辺りがやってってくれると思うから私達は2つのボックスのハンターを封印すれば良いんだよ」

長台詞で自らの考えをはる夫に語るドータクン。

「成る程……じゃあ早くハンター封印してしまおうぜ」

と言う事で2人は商店街から近い住宅エリアに向う（因みに、住宅街からタワーまではおよそ900m。其処、長いとか言わない）。

その1分55秒後……（2人共走るの早すぎと言う突っ込みは無しで）

「着いた！」

ガコン！

ハンター封印 残り4体

ミッション終了まで、残り4分

「不味いな……後4分で4体封印しなきゃならんのか……」

ドータクンは少し焦り始めるが、急いでタワーへ向う。

その頃……

「着いた……」

バリケードが張ってある場所に到達した出木杉。

「これ、王が渡してくれって……」

早速出木杉は税金の入った袋を渡す。

「おお、遂にあのクソツタレ真っ赤っ赤1頭身王も改心したか！」

何気に暴言を吐きながら、バリケードを開け、逃走者の通行を許可

する。

「よし……この事をメールで伝えよう……」

出木杉は凄まじいスピードでメールを送信する。

「ん、新興住宅エリアの通行止めが解除されたのか……行くか！」

バリケードの近くで待機していたスネ夫は出木杉からのメールを見ると同時に走り出す。

その24秒後……

「お、スネ夫じゃないか……！急ごう！装置は目の前だ！」

スネ夫と合流した出木杉は、300m先に有る装置へ向け走り出す。

ミッション終了まで、残り2分

「行け！」

ガコン！

ハンター封印 残り3体

「後3体か……頼むぞ！」

新興住宅エリアに進入した出木杉とスネ夫は、装置を探して再び走り始めた……

一方……

「有ったぞ！」

出木杉とスネ夫が頑張っ居た頃、ドータクンとはる夫はタワー40階で装置を見つけて居た。何故見つけたかは割愛。

ガコン！

ハンター封印 残り2体

「これで3エリアのハンター封印は終わったか……一応メールで伝えて置くか……」

念力でメールを打ち、ドータクンは東エリアの全逃走者に送信。

「お、出木杉、3エリアのハンター封印が終わったらしいぞ！」

走りながらメールを読み、その内容を出木杉に伝えるスネ夫。俺にはそんな事無理w

ミッション終了まで、残り1分30秒

スネ夫がメールを読んだ30秒後……

「な、何とか辿り着いた……」

2人共息を切らしながら到着。

「「おりゃああー!!」「」

ガコン!

ハンター封印 残り1体 (ミッション終了まで、残り45秒)

「で、出木杉……45秒でハンターを封印する何て無理だ……もう諦めよう……」

「ああ……」

勝手に最後のハンター封印を諦める2人だが、彼等は十分頑張った方なのでまあ良いだろう……

ミッション終了まで 10

9

8

7

6

5

4

3

2

1

……0

遂に、ハンターが1体放出され、その数は5体となった……

プルルルルル　プルルルルル

「メールだな……」出木杉、ドータクン、はる夫、スネ夫の活躍によりハンター5体が封印された。しかし、ハンターが1体放出され、その数は5体となった『誰だよミッションサボってるのは……』

マリオがミッション不参加者へ文句を言う。ミッション全く行っていないお前が言うな！

この結果に西エリアは……

「役立たずだな……東エリアの連中は！」

自分達の事を又もや柵に上げ、東エリアの15人に文句を言うゲンガー。もう突っ込む気力も起きねえよ……

「やっぱりハンターが放出されたでゲスな」

最初から諦めムードだったエスカルゴンは上の様な反応をする。

「それもそうだがよ……俺の予想では1stで生き残るのは3、4人位だと思うんだよ……」

突然1stステージ突破者の数を予想し始めるポリゴンZ。

「成る程な……俺的にはマリオみたいなミッション行かない奴程生き残ると思うんだよ……」

エルレイドも独自の予想を展開。まあ、本家でもそう何ですけどね。

こうして、西エリアのメンバーがコーヒーを飲みながら1stステージ逃走成功者の予想をして居た頃、東エリアの逃走者は……

「何で1体放出されるんだよ……役立たずだな……」

ミッションに全く動いていないガブリアスが5体封印に貢献した4人に腹立っている。ミッション行ってないお前が言える事じゃないだろ！

それを見ていたサイコハ口は……

<??.??.>

「まさか此処まで逃走者が自分勝手だったとはな……実に呆れた！
もうこれ以上言葉も出ない！」

完全に呆れていた。

その頃……

「もうミッションは勘弁してくれ……」

物陰に身を潜める2人組のデブな方、はる夫。

其処へ、黒い影……

「中々見つからないな……」

はる夫の周囲を搜索している……

「ヤバい！ハンターだ！」

抜け道の様な所に隠れていたので、はる夫はハンターの姿を見るや
一目散に逃げ出す。当然、ハンターもはる夫を見つけ追跡。

「は、早い……」

しかし、はる夫の走るスピードは徐々に下がって行き、ハンターと
の差も縮まって行く。最早逃走不可能……

「ぐわあああああ！！」

ポンッ

1stステージ残り時間38分37秒 はる夫確保 残り14人

「400万がああああ！！」

はる夫はショックでその場に倒れ込んでしまう（因みに、はる夫は
スタッフが頑張って担いで牢獄に放り込みました）。

プルルルルル プルルルルル

「またメールか……」住宅間の抜け道にてはる夫確保、残り14人
「はる夫が確保された所で然程損害は無い」

はる夫が捕まった所で何とも思っていないミュウツー。

「はる夫が確保されたか……まあ良いだろ」

ドラえもんもミュウツーと同じ様な考えだ。お前等最低だな！

<??.??.?>

「ドラえもんとミュウツーは最低……と。まあ、それがこの小説の醍醐味何だかな……さて、次のミッションはどうするか……」

ミッションに悩んでいるサイコハロ。

其処へ……

「次のミッション、私が考えて見せましょう……」

サイコハ口の前に現れた人物とは!?

その招待………じゃなくて小隊………でも無くて正体は次回明らかに
なるので続く

ミッション1 part2(後書き)

おまけ 西エリア逃走者の一言

ルイーダ「兄さん全くミッション行く気無いな……弟として恥ずかしい……」

ミッション2 part1(前書き)

久しぶりに投稿。お待たせしました。

ミッション2 part1

「何だ、か……」

サイコハロは が来た事に少しがっかりしている。

「落ち込むとはどう言う事で？ 兎に角、今回のミッションはこれで行きましょうや」

すると、サイコハロは『賞金単価』と書いてある所をタッチした……

ブルルルルル　ブルルルルル

「またメールかよ……」 『ミッション2、新興住宅エリアとタワーエリアに賞金単価減額装置を設置した。残り25分になると1秒の賞金単価は200円となってしまう、最終的な賞金は258万円となってしまう。阻止するには、『金が絡まないとミッションには行かない』者同士で装置のレバーを下ろさなければならぬ。直、1台しか装置を停止出来なかった場合は、1秒の賞金単価は300円となる』これは行かねばならぬ！（いざと言う時には誰かを道連れにしても） 「（byマリオ）」

ミッション2　賞金単価減額を阻止せよ！

サイコハロにより、新興住宅エリアとタワーエリアにお馴染の賞金単価減額装置が設置された。残り25分になると1秒の賞金単価は200円となってしまう、最終的に獲得出来る賞金は258万円となる。これを阻止するには『金が絡まないとミッションには行かない』者達2人(例、マリオ)で装置のレバーを下ろさなければならぬ。因みに、1台しか装置を停止出来なかった場合の1秒の賞金単価は300円となり、賞金は351万円となる。

「これは絶対行くぞw」

2828笑いながらガブリアスは新興住宅側の装置を目指す。

一方、ミッションの内容を見た西エリアは……

「これは楽勝でゲしよう。向こうには頭の中が金で一杯の奴が沢山居るでゲスからな」

エスカルゴンはこのミッションを楽勝と見る。

「全くだ……」

ゲンガーもブラックコーヒーを飲みながらエスカルゴンの意見に賛同する。と言うか、お前が言うなゲンガー！

「そんな事言ったらまたナレーターに突っ込まれるぞ」

キノヤマーがゲンガーに突っ込みを入れる。

「まあな……別に俺はナレーターに突っ込まれても特に気にしないし、良いんだよw」

ゲンガーは突っ込みをどうでも良いと思っている様だ。

「何か趣旨ズレてませんか？後無糖コーヒーとホットケーキお代わり頼む」

此処ですかさずエルレイドが突っ込みを入れる。

「あ、俺の台詞！」

安雄は先に突っ込まれた事を悔しがっているが、そんな事悔しがられても困る。

すると……

「お代わりだ」

雑用担当のリグ・リングがエルレイドのお代わりを持って来た。

「お代わり早っ！」

エルレイドは1分でお代わりを持って来た速さに突っ込みながらも、ホットケーキを意外と上品に食べる。ワリオやジャイアンにはこの食べ方は無理だろうwww

さて、そろそろ話を戻そう。

「これは私が動く必要は有りませんね、と言うか私は動けませんね……」
「ワリオさんの様な人何てこの逃走中に山程居るんですからクリアは楽勝でしょう」

ヨッシーはクリア楽勝と予測する。

一方……

「こいつ言つのに限って罠が仕掛けられているからな……」

ミユウツーはヨッシーと違いミッションの罠を警戒。

「俺はタワーに向つとするか……」

マリオはやや近いタワーの装置を目指す。

「俺もタワーへ向おう。此処からなら近いしな」

ライチュウもタワーの装置へ急ぐ。

その頃、サイコハロは……

<??.??.>

「やはりな……早くクリアされても面白くないし、こんな罠^{トラップ}を仕掛けて見るか……」

すると、装置前に『暗証番号入力装置』が設置され、装置は扉で閉ざされてしまった……

勿論、東エリアの逃走者はその事を知らない……

それを見た西エリアの逃走者達は……

「サイコハ口もやってくれるでゲスな……」

エスカルゴンが悔しがる表情でモニターを見つめる。

「全くです……やっぱりこの逃走中なめてたよ……」

キノツクルがサイコハ口の嫌がらせにビビる。

「だろ？大体ナメてたらロクな目に遭わん……」

エルレイドが答えると……

「やっぱり作者って本当に俺達を嵌めようとしてるよな……取り敢えず俺達はゆっくり出来て良かったが、賞金減額は何としても止め

て貰わないとな……って同じ事何回俺等言ってるんだw

ポリゴンZがノリッッコミをする。

「下手糞！ノリッッコミはもっと上手くやれ！」

ゲンガーに突っ込まれるポリゴンZ。

こんな事書いていてもキリが無いので）ry

<東エリア 新興住宅街>

「確かマリオは住宅街の方に居るってメールで言ってたな……俺も向うとするか……」

ガブリアスは装置へ急ぐ。

一方……

「これは動かざるを得ないだろ……でもまあ、作者の発想力は少しは有るらしいな……でも、このメンバーにこのミッションは楽勝過ぎるだろ……多分な」

ライチュウはこのミッションに何か裏があると探る。

「多分どっちかにもう2人が行ってると思うんだよ……先ずマリオ辺りにメール送るか」

妙に携帯メールを打つのが早いライチユウだが、突っ込んではいけない。既に装置に向かってそうな方々にメールを送ると、次の様な返事が返って来た。

『今住宅街の装置前に居る。ガブリアスが今コッチに向ってるから多分大丈夫』（マリオ）

『住宅街装置まで激走中!』（ガブリアス）

『俺様はお前辺りが動いたら動くぞ!』（ワリオ）

『何かさっきマリオから住宅街の装置に居るって言ってたからタワーの方に行きたいんだけど前にハンター居るから無理w』（ドラえもん）

との事。

「成る程な……作者が内容増加させようとしているのが目に見えるぞ……ってこの台詞もそうじゃねえか……兎に角、マリオとガブリ

アスには早く装置の電源を切って貰おう……」

ライチュウがクリアを願っている頃……

「何だよこれ！よく見たらロック掛かっているじゃねえかよ！チキシヨー！簡単と見せてこんな事になってたとは！してやられたか！」

マリオが漸く暗証番号によるロックが掛かっている事に気付く。若しかして頭はあんまり宜しくない？（本人が言うには大卒らしいが

「今頃マリオは暗証番号の事に気付いたか。絶対ルイージの方が頭
良いだろ……今度テストしてやれ……まあそれは兎も角、西エリア
の連中の様子も探ってみるか……」

作者が言う様に、西エリアの17人は……

「ん、あそこに書いてある紙って暗証番号じゃ……」

安雄がモニターに映っているマンションに貼ってある紙を見つめる（因みに、そのモニターには誰も移っていません）。其処には『429730』と書かれていた。恐らくそれが暗証番号だろう。

「すげえな安雄！俺も気付かなかったぞ！」

エルレイドが安雄を褒める。

「それにしてもクツパ様は何をやっておられるのか……」

何もしないクツパに呆れるカメツクババ。

「兄さんの頭の悪さには呆れたよ……もし逃げ切ったら『頭の冴える本』でも買ってあげようかな……それとも『大人気！漢字数学100問ドリル！』にしようか……でも2つともそんなに高くはないからこの逃走中が終わった後に買おう……」

密かに本購入計画を立てているルイージ。

「おお、買ってやるのが良いんじゃないのか？」

それに賛成する安雄。

「そう思ってくれる人が居て僕は嬉しいよ……」

ルイージは安雄が自分の考えに賛成してくれた事を喜ぶ。

さて、こんな事が西エリアで起きていた頃……

「暗証番号を探せ！？メンドクセエエエエ！」

と、ライチュウが絶叫した所で、次回に続く

ミッション2 part2 (前書き)

皆様のご期待に応え、あいつが捕まります。

鼠は空いた口が塞がらない。

その頃……

「お、マンションに書いてある『429730』が例の暗証番号じゃないのか？」

マリオが安雄の言う暗証番号を見つける。

「だな。取り敢えず所持品のメモに記して置こう……」

2人は429730とメモ帳にメモる。

「これ、死に苦名竿って読めるな……何か深い意味でも有るのだからか……」

この暗証番号に何か意味があると読むマリオ。

「さあ、42は兎も角9730は適当だろ」

ガブリアスは何も意味が無いと言う。

「まあ、そんな事どうでも良いから早く戻ろっぜ」

と言う訳で、再び装置を目指すのだった……（道に迷ったりしませんよ）

ミッション終了まで 残り14分

その頃、W社長は……

「畜生……ハンターのせいで動けねえじゃねえか……」

と、隠れて何処かへとハンターが向つのを待つワリオ。

しかし……

「そうは問屋が卸すかよ！」

見つかった……

「なにいいいい！？俺様は金の為に此処まで来たんだ、捕まる訳にはいかああああああん！！！」

何と、肝心なタイミングでワリオの必殺、ワリオっぺが炸裂し、オナラパワーによる凄まじい勢いでワリオは逃げて行った……

「ゲエエエエエ……」

ハンターはあまりに臭かったのでゲを吐いてしまった様だ。

それを見た西エリアのメンバーは……

「ちょｗｗｗｗアリエナスｗｗｗｗ」

と大爆笑するポリゴンZ。

「前からやるとは思っていたが、遂にやりやがったｗｗｗｗ」

とワルイージも大爆笑。

「あ、ありのまま今起こった事を話すぜ……！」

とかエルレイドが言い始めたのでそれは省略。 おい！

「ハンターにゲ をさせるとはワリオさん恐るべし！私も気をつけないと……」

キノピオはビビっている……

「ありゃあ放送禁止物でゲしようが、作者はそんな事気にせず放
送しまくるでゲしような……」

エスカルゴンはコーヒーを飲みながらそう解析する。

とまあ、西エリアはこんな様子だったとき。

では東エリアの様子をどうぞ。

「僕ちゃんはお金が減っても痛くもかゆくも無いからミッションには行かないよ」

スネ汚……もといスネ悪、でも無くスネ夫は余裕ぶる。

其処へ……

「おお、あの変な頭がスネ夫か……大して足も速そうじゃないし、あいつを嫌ってる人も多いから、捕まえれば俺の評判も上がると言う物よ……」

ハンターだ……

「ゲツ、あれってハンター!?!」

スネ夫もハンターを見つけ、走る。

「お前を捕まえれば俺の評判は上がるんだよ!大人しく捕まれ!」

ハンターは滅茶苦茶な理由でスネ夫を追跡する。

スネ夫は逃げ続けるが、やはりその差は徐々に縮んで行く。最早逃走不可能……

「ママ〜!」

ポンッ

1stステージ残り時間3分17秒 スネ夫確保 残り13人

「う、ウンでしょお……?」

嫌われ者、此処に散る……

プルルルルル プルルルルル

「何だ、メールだぞ……」
『タワー付近にてスネ汚確保、残り13人』
何だ、スネ夫か。別に大した問題じゃないな……」

流石は蒼い悪魔である。

「むしろ邪魔者が消えたな……」

と、スネ夫が消えた事を喜ぶドータクン。

其処へ……

「おお、あれが鈍足ドータクン……奴は力モだ！」

またもや黒い影……

「え、ちよつ、ふざけんなｗｗｗｗ」

急いで逃げ出すドータクンだが、素早さ種族値33の彼にハンターを撒ける筈が無い。最早逃走不可能……（またか）

「ギヤアアアアアアアア！」

ポンッ

1stステージ残り時間3分22秒　ドータクン確保　残り12人

「まあ……前回よりは逃げれたかな……って、またこんな早くに捕まるのかよ……畜生……クソツタレ共の牢獄に行くのは嫌だあああああああ！！！」

鉄壁の耐久積み要塞ポケモン、ハンターの前に呆気なく敗れ去る……

プルルルルル　プルルルルル

「またメールか……『新興住宅街一戸建てエリアにてドータクン確保、残り12人』おいおい、ミッションに行く数少ない奴が捕まっってしまったぞ……」

ミュウツーはこの事を危惧する。まあ、このミッションは『金の亡者』しかいけませんかね……って後のミッションに響くかw

「ナレーターはバカだな」

うるせえよ！

「まあ、そんな事はどうでも良いのだが……」

と、此处で『じゃあこの件要らないだろ！』と言う流れになるのはお約束なので、流す。

「おお、あれだ！」

装置の前に戻って来たマリオとガブリアス。

「ええ……429730と……」

ピポパピポピ

暗証番号を入力すると、ロックが解除された。

「「せいの！」」

ガコン！

賞金単価減額装置1台停止 残り1台

これで、賞金単価200円は阻止された……

ブルルルルル　ブルルルルル

「おお、メールだ、『マリオとガブリアスにより、賞金単価2000円化は阻止された。だが、このまま行くと、残り20分に1秒の賞金単価は300円となってしまう。金にがめつい諸君等は急ぎたまえ』って私のがめつくないから無理ですよ……」

ヨッシーはメッセージを読みながら突っ込む。

「さあ、後は誰かがやってくれるのを祈ろう……」

と、2人は別れた……

その頃、ミッションに動こうとしているライチュウは……

「邪魔なハンターだな……早くどけよ……！」

と念じるが、中々その場所から離れようとしてくれないのが現実。

すると……！

「……」

何と、ハンターがその付近から離れてくれたのだ！

「よっしゃあ……逃げ」

大声を挙げずに、ライチュウは忍び足でタワーへと向って行く。

ミッション終了まで 残り9分30秒

ライチュウが急いでいた頃、牢獄では……

<牢獄deトーク>

「おお、マリオとガブリアスがやってくれたか！流石は金に汚いだけは有るぞ！」

褒めているのかバカにしてるのかどうか分からない言葉を放つドータクン。

「おお、この調子でもう1個レバーを下ろすZOY！」

DDDは気楽そうだ。

それを見ていた西エリアの17人は……

「おお、思ったよりは牢獄はまともでゲスな。陛下が重過ぎるせいで少し暑苦しそうでゲスが……まあ、あのドータクンは浮遊と耐熱両方の特性を持つてるんだから大丈夫でゲしよう……」

エスカルゴンが牢獄を見ながら一言。

「それもそうだが、次は何のミッションが来るんだろうな……俺は強制失格ミッションだと思うが……」

テッカニンは頭を捻りながら次のミッションを予想する。

「ま、どうせあの作者の事だ、ミッション3は兎も角4以降は何も考えてないだろうなwww否、冗談抜きでwww」

他人事だと思つてバカにしやがつてエルレイド！笑うな！冗談抜きとか付けてくるから余計に夕チが悪いなこいつ等W

「笑つてやれww」

それに便乗してゲンガーも作者を笑う。その気になればお前等の首何時でも切れるんだぜ？

「分かつたよ、笑いませんよ！」

渋々ドククラゲは笑うのを堪え、ナレーターの警告を聞き入れた。

「何なんだこのコソトは……」

と、横でキノヤママーがホットケーキを食いながら呆れていたとき。

続く

と見せかけて今回はまだ終りませんよ。

それでは続きをどうぞ。

「タワーつつたつってタワーの中なのかタワーの周囲なのかどっちに有るのが問題何だよな……」

タワーエリア入口付近でライチュウは考える（悪巧みじゃないよ）。

「まあ、取り敢えず周囲を探して見るか……」

果たして、ライチュウは装置を見つける事が出来るのだろうか!?

今度こそ次回に続く

ミッション2 part2 (後書き)

ミッション終了まで 残り8分

エルレイド「時間過ぎるの遅かったり早かったり安定しないなおい
」!

ミッション2 part3(前書き)

何とか投稿。後オチに注目するべし。

ミッション2 part3

「まったく……兔に角噴水の付近には無いな……作者め……余計な手間を掛けさせてくれるじゃねえか……！」

ライチュウは苛立ちながらもタワーの辺りを搜索する。

その2分後……

「これはタワーに有ると見るべきだな……ん？此処に何か書いて有るぞ……？」

ライチュウは壁に貼ってある紙を見つめる。すると其処には『タワーと住宅街の暗証番号は違つ』と書かれていた。

「余計面倒臭せえ……兔に角この事をメールで報告だ！」

メールを打つのが妙に素早いライチュウ。

直ぐに、この事についての返信が返って来た。

『今向ってるから待ってる!』(ドラえもん)

『俺様は向う必要無さそうだな!』(ワリオ)

『俺はもう関係ねえよWWW』(ガブリアス)

……ロクな返事が返って来ないのが現実。

ライチュウがメールの返信内容に呆れていた頃……

「あれ、これってまさか暗証番号じゃあ……」

ヨッシーが偶然商店街の裏路地に張つてある紙を見つ^{ペーパー}ける。すると其処には『482526』と番号が書かれていた。

「作者もこんな所に暗証番号を記しておく何てタチが悪いですねえ……この事を早く伝えなければ！」

頑張つてメールを打つヨッシー（どうしても良いですが、携帯はスマートフォンではありません）。

数十秒後、直ぐに返信が来た。

『ダニイ！？感謝するぞヨッシー！俺は今装置を探すのに必死だ！』（ライチュウ）

『良くやったヨッシー！ライチュウがあまりに遅いので俺も仕方なくタワーへ向う事にしたぞ！』（ワリオ）

『ありがとよ！』（ドラえもん）

「まともな返事が来て良かったです……さっきライチュウさんから

ロクな言葉が返って来なかったって言うメールを頂きましたから……

因みに、今商店街エリアにはヨッシーとクッパが居る（逆に言えばその2人（体？）しか居ない）。とんでもないコンビだ……

とまあ、ヨッシーは裏路地で待機しているので、別の視点へ（ry

「しかし、このミッション失敗するかもしれません……後5分しか有りませんからな……」

キノじいは状況を分析する。

其処へ、黒い影……

「む、あれはハンター……?」

素早く身を潜めるキノじい。その身のこなし、まるで忍者の様だ。

「何かが今動いて行った様な……気のせいだろうか……?」

先程ゲ を吐いたハンターは突然キノじいが消えた事を不思議がる。

「む……何かこのハンター、臭いのです……」

どうやら、まだ 口の臭いが残っているらしい。

「私のがめつくないからミッションには向かえませんか……」

キノじいはミッションに向いた様だが金にがめつくないので仕方無く諦めた。

その頃、ライチュウは……

「これ、タワーには無いな……」

ライチュウは装置が見つからず、諦めかける。すると……

『おい、ライチュウ、さっきタワーの近くに小屋があったからその扉を俺様の怪力でこじ開けたらその中に装置があったぞ!』

ワリオからメールが。

「急げ!」

ライチュウは大急ぎでタワーのエレベーターに飛び乗る。

ミッション終了(賞金単価減額)まで 残り2分

「間に合え……!」

ピンポーン 1階です

エレベーターのアナウンスと同時に、エレベーターの扉が開く。

「うおおおおおおお!」

ライチュウは凄まじい勢いでタワーを飛び出し、小屋へ向う。

ミッション終了まで 残り1分

「此処か！」

小屋に辿り着くと、ワリオに手を引っ張られ、小屋に連れて行かれる。

「行くぞ！」

ガコン！

ミッションクリア

こうして、賞金単価減額は阻止されたのだった……作者の目論見、打ち砕かれる。

プルルルルル プルルルルル

「メールだ……『マリオ・ガブリアス・ライチュウ・ワリオの活躍により賞金単価減額阻止、1秒の賞金単価は400円のままである』あいつ等がやってくれたか……！」

ドラえもんはこの事を喜ぶ。

しかし……

「チツ……やっぱりクリアされたか……商店街に張って置けば見つからないと思ったが……ヨッシーがあそこに居たとはな……」

作者はこの事を悔しがる。

「で、次のミッションはどつする心算だ？お約束のあれか？」

サイコハロが作者に聞く。

「否、例のあれは2ndステージで出す予定だ。だからまだ考えられていないw」

さり気無く爆弾発言をする作者。

「おい!!」

こんな作者にサイコハロが突っ込んだ所で、話を戻す。

「それにしてもこの逃走中、急に時間が経ったり経たなかったりや
やこしいんだよな……これもあの作者が好い加減なせいだ！」

好い加減な作者に憤るドラえもん。

其処へ、黒い影……

「確実にあの体型はドラえもんだな……この辺りに鼠も居ないし、
此処で消えて貰うとするか！」

見つかった……

「ゲ！あれってハンターかよ！？」

ドラえもんは直ぐにハンターに気付き、逃げる。

「ヤバイヤバイ！これでは僕の夢が！」

必死に逃げ続けるドラえもんだが、その差は縮まるばかり。最早逃走不可能……

「ぎよえーっ！」

ポンッ

1stステージ残り時間17分24秒　ドラえもん確保　残り11人

「うおおおおお……！俺のドラ焼きiiiiiiii……！！」

22世紀の猫型ロボットも、ハンターには敵わない……

ブルルルルル　ブルルルルル

「また確保情報か……？」「金の塔20階にてドラえもん確保、残り11人」段々減ってきたな……でもこの調子だったら結構2ndに進める奴の方が多そうだな……まず作者はそんな事させないだろうが」

と考えるクツパ。

しかし、その読みは的中する事となる……

何故なら……

「あれはクツパか……？」

近くにハンターが居るからだ……

「む……？あれはハンターだと!？」

クツパもハンターを見つけ、一目散に逃げ出す。

「待てい！」

頑張つてクツパも走るが、幾らのび犬やドータクンより速いとはいえ激遅グループで有る事に変わりはない。最早逃走不可能……

「ぐわーっ！っ！」

ポンッ

1stステージ残り時間15分43秒　クツパ確保　残り10人

「な……何故ワガハイが……」

何気に金持ちなツンデレ大魔王、此処に散る……

プルルルルル　プルルルルル

「ちょwまたメールつてwwwアリエナスwww『商店街にてクツパ確保、残り10人』おい……この減り具合は異常だろ……」

ライチュウはこの逃走者の確保速度を疑う。

その頃……

「クツパの甲羅のトゲってこんなに痛いのかよ……」

ハンターがクツパのトゲで手を痛めていたとさ……

続く

ミッション2 part3 (後書き)

次回予告

遂に1stステージも最後に差し掛かった所で、1stステージ最後のミッションが東エリアの逃走者に襲い掛かる！

果たして、このミッションをクリアし、2ndステージに進む偉大な逃走者は誰か!?

次回、『ミッション3 part1』乞うご期待！

ミッション3 part1(前書き)

遂に1stステージ最後のミッションが始動!

ミッション3 part1

<?????>

「さて……次のミッション、どうするか……今回の中盤までには決めなければならぬ……面倒だなおい……作者の無い知恵を絞って考えなければならぬとは……」

サイコハロよ、そんな事を言うんじゃない。お前も首にしたい所だが、返り討ちにされそうだし、そもそもお前を抜いたら作者の小説の魅力が減るので止めておこうじゃないか。

「上からの目線のウザいナレーターだ……」

ナレーターに暴言を吐くサイコハロ。流石は丸い悪魔、暴言はお家芸と言った所か。

「うるせえよ！お前燻製にしてやるつか!?!」

では、そこそこ長い事サイコハロと喋ったので、西エリアの逃走者を見て見よう。

「ちょW無視すんなW」

「流石は金の亡者共、やってくれたな！」

エルレイドがどちらともとれる発言をする。

「あいつ等ならやってくれると思っていたがやっぱりやってくれたか！流石は金の事しか頭に無い連中ばかりなだけはある！」

ゲンガーも同じ様な事を言う。お前等仲良いだろ。

「まあな。俺らは結構仲良いよ？これ豆知識な」

そんな事を解説してくれるドククラゲ。言っちゃ悪いが本当に超が付く程の豆知識ですな。

「まあ、次はどうせ作者、強制失格でも出すんじゃないのか？」

ワルイージは今回のミッション内容を考える。

「だろうな。あの適当作者の事だ、そうに違いない！」

ジャイアンもそれに同感の様だ。

「だなWWW」

……もうこれ以上会話書いても同じ様な内容になるので省略！

「さてと、そろそろ1stステージも終わりに近づいて来たな…」

ガブリアスが腕時計を見ながら呟く。

「作者はそろそろミッションを考え付いたか……？出すのなら早く

出して欲しい物だ……」

そんなに作者を急かすな、ガブリアス。

とまあ、そんなやり取りをナレーターとガブリアスがしてる頃、この男は遂に……？

「よっしゃ！決めたぞ、次のミッションは最近良くあるあれだ！」

その頃、サイコハロは遂にミッションを決定した様だ……

「さあ、これで1stステージのミッションは最後だな……」

サイコハロは背伸びをしている……

<牢獄>

「おい、ロクでもないクソツタレのお前等にクジを引いて貰おう
と思ってな」

行き成り牢獄の前にリグ・リングが現れた。

「うるせえよ！2つ引けば良いんだな！そらよ！」

ドラえもんが引くと、其処には『出木杉』、『キノじい』と書いて
あった……

これが、ミッションを左右する事となる……

<???>

「ほお……貴重な人材を引いたなあ……じゃ、メール送るか！」

ポチツとな

サイコハ口は、逃走者にミッションのメールを送ったのだ……

ブルルルルル　ブルルルルル

「何だあ、またミッションか……」 『ミッション』　牢獄の人間による籤引きで出木杉とキノじいを選ばれた』 それで？」

「『彼等は残り5分になると強制失格となってしまう。阻止するには全員の指紋をタワーエリアにある装置に認証しなければならない』 『ミッションに行ってくれる貴重な奴等が消えるって事が……』」

最低だな、ライチュウとガブリアスは。

ミッション』　選ばれた逃走者の強制失格を阻止せよ！

牢獄者によってクジ引きで選ばれたキノじいと出木杉。

彼等は作者によって残り5分になると強制失格となる。

阻止するには出木杉とキノじいを含めた全員の指紋を認証しなければ

ばならない（出木杉の場合は本人と他の逃走者5人が認証した時点でクリア。キノじいの場合も同様）。

しかし、装置が設置してあるタワー20階は、残り6分に閉鎖される為、急がなければ2人は失格となる（つまり、実質残り6分までにクリアしなければならない）。

後、何処かに有る宝箱に入っているカードキーを使えば残り6分に20階の扉が閉鎖されても扉を1分だけ開く事が出来る。

因みに、最後の1行の事は逃走者には知らされていない。つくづくタチの悪い男である。

「ちょw待てよwwwミッション行く奴全滅するぞwww」

エルレイドは笑うしか無いのか、大爆笑している。

「どうでも良いんだが俺は捕まる時は全くミッション行かない奴を……おっと、これ以上は言えないな」

何か良からぬ事を企てているゲンガー。

「俺は一応エスパータイプだからな……お前の考えている事を読み取ってやろう……何じゃこりゃあああ!!黒い物体に囲まれて考えが読み取れん!!」

一応エスパータイプのエルレイドはゲンガーの企てている事を読み取ろうとするが読み取れない。

「そんな無駄な事は止める。作者に今回が長く見せる為に利用されてしまうぞ」

ドククラゲがエルレイドが行っている心の読み取りを止めようとする。

「まあ、それもそうだな……」

ドククラゲの言う通り、エルレイドは心の読み取りを止める。

「それにしても兄さんしぶとく生き残ってるなあ……」

ルイージが喋る。

「何気にお前もさり気無く毒舌だな……」

上の口調に突っ込む安雄とジャイアン。

まあ、この後会話を書いてもどのような内容になるのかは目に見えているので今回はこれ以上は書かない！（多分）

「面倒臭い……まあ、ミッション行く奴が減ったら困るしな……」

とんでもない理由でミッションに向うガブリアス。お前みたいな奴は1stステージ中にとっとくたばれ。

「うるせえよクソナレーター！お前がクタバレ！」

何を言うか！クタバレって言った奴が先にクタバレ！

「クタバレクタバレクタバレクタバレクタバレアホナレーター！」

(ナレーター交代) 何と言う醜い争いだ……

「取り敢えずタワーに急ぐとするか……」

タワーへ急ぐガブリアス。

しかし、其処へ黒い影……

「ゲ……ハンター!？」

ハンターに見つかったガブリアスは急いで逃げ出す。

「ドータクン以外まともな奴が居ない牢獄は嫌だよ!クソ!俺はこれでも素早さ252振りしてあるんだぞ!」

何と、ガブリアスはハンターを上手く撒いた様だ……

「チツ、撒かれたか……」

ハンターは舌打ちをしながら、別の場所へと歩いて行った……

「しかし、今追いかけられたせいでタワーから離れてしまったな……
…面倒臭！」

そう思いながらも、ガブリアスは再びタワーへと歩いて行く。

「タワーの何処に装置があるんだよ……！ 作者は何時もこんな所
だけ」を隠すからな…… タチが悪い……！」

と小声で毒づきながらも、ワリオは装置を探す。

「うゝむ…… 前回の事だ…… 作者はミッション終了1分前になると
装置の部屋閉じるとかしそうだな…… と言う事は実質残り6分まで
にミッション片付けなければならぬのか…… 何て奴だ……！」

ライチユウは作者に恐怖する。

「さっきタワーの21階か何処かにこんな張り紙がして有ったな……
…『このタワーの地下、宝箱眠る』を探るか……！」

勘と記憶力の良いライチユウは、タワーの地下を目指すのだった……

しかし、他の逃走者は残り6分になると鍵がないと20階に入れな
い事に……（ライチュウはこの事を知らせていません）

果たして、ミッションをクリアし、出木杉とキノじいを助ける事は
出来るのだろうか!?

続く

ミッション3 part1(後書き)

因みに、私は思いつきでミッションを決めています。そんな風に決めているので、それが原因で更新が遅れる事もしばしば……御免なさい。

ミッション3 part2(前書き)

もし、逃走者の数え間違いをしていたら分かり易く作者に教えて下さい。作者は頭があまり良くないので……

ミッション3 part 2

<西エリア>

「ライチュウってこんなに勘と記憶力が有ったのか……凄げえな……俺にはそんな事記憶出来ねえよ……」

ジャイアンはライチュウの記憶力を褒める。安心しろジャイアン、作者も昔は良かったって周りから言われてたけど今は大したことないからw

「だな……」

それに同感する安雄。

「あいつにそんな能力が有ったとはな……そんな事が出来るとは思えんが」

キノヤマーは何か裏があると探る。まさか作者が記憶力を上げたとか言っんじゃないでしょうな？

「そのまさかだ(爆)」

その質問はなしで。

「くっ……この質問が不発に終るとは……そんなバカな……」

不発となった質問の事を悔しがるキノヤマー。

まあ、それはさておき東エリア……おっと、その前に……

<? ? ? ?>

「サイコハロ。感想の返信は順調に出来てるらしいな……後、最後のミッションまでの内容を少しは考えておいたぞ。今からそのデータを送らせて貰う」

作者がサイコハロにデータを送ると、其処にはこう書いてあった。

『MISSION 4 を ! MISSION 5 を
MISSION 6 を ! MISSION 5 を』

超伏字だらけだが、超能力者なら分かる筈。

「決してアレな意味では無いからな！」

と作者が釘を刺す。

「だろっな……」

サイコハロもその事を分かっているらしい。

「じゃあ、頼むぞ」

ッピ。

こうして、作者からの通信は切れたのだった……

さて、そろそろ本題の東エリアを（ry

「地下に階段が有りそうな物だが見つからんなあ……これはお約束の隠し階段とか言うのか？」

ライチユウは地下へ降りる階段が隠して有る事を予感する。

「ん、これは……でかい石が露骨に設置して有る……これは怪しすぎるwww」

よいこらしょー！とライチユウは石をどける。

すると、やはり……

「おお、ハシゴが！」

隠し階段ならぬ隠しハシゴが現れた。

「よっしゃ、降りるぞ……」

ライチュウは隠し梯子を降りて行く。

其処には……

「うわ……此処は牢獄として使われていた場所なのか……？」

其処には、周りに死体がごろごろ転がっていたのだ！

「うっ……！異臭が……！早く宝箱とやらを見つけて此処から出よう！」

この場に長く居るのが危険だと察したライチュウは宝箱を更に必死になって探す。

すると……

「あれか……！」

宝箱を見つけたライチュウ。

早速中を開けると、髑髏マークが書いてあるカードキーらしき物が一枚入って居た。

「これか！さあ、早く此処から抜け出すぞ！」

ライチユウはポケットにカードキーをしまつと、急いで梯子の有る場所まで帰り、地下から脱出したのだった……

「おええ……死ぬかと思った……」

何はともあれ、ライチユウ、カードキー獲得

「さて、20階に向うとするか……」

急いでエレベーターに乗り込むライチユウ。

その頃……

<ゴールドタワー20階>

「これに指紋を認証するんですね……あれ、手が無い人はどうするんでしょうか？」

そう考えながら、ヨッシーは指紋を認証。

ピー……ピッ

ヨッシー ミッションクリア 残り9人

「さ、早く此处から脱出しよ……ってうわあ！」

行き成り、ライチュウが装置に突っ込んで来たのだ！

「こつだな！」

ピー……ピッ

ライチュウ ミッションクリア 残り8人

続いて……

「おお、これかこれか！」

ガブリアスと出木杉とマリオが20階に到着。

ピー……ピッ！x3

ガブリアス 出木杉 マリオ ミッションクリア 残り5人

後1人が指紋を認証すれば、出木杉の強制失格は免除される。更に、後5人が認証すれば、キノじいを救出する事も出来、これでめでたくミッションクリアとなる。

しかし……

「チイツ、ハンターが今此处から離れば直ぐに向う物を……」

そうは簡単にクリアさせてくれないのが作者。

「大体何処に装置が有るんだよ……それを教えないから作者はタチが悪いんだよな……」

ハナクソをほじりながらタワーの何処に装置が有るのかを探すワリオ。

「ええい……作者め……一体何処に装置を隠した……！」

と、何時の間にかサイコハロが勝手に行っていたクジ引きで復活しているクッパ。

実は数分前……

『お前等、突然だがまたクジを引け。当たりが出た奴は復活出来るぞ』

勝手に牢獄で行われていたクジ引き。

其処で……

『よし！ワガハイが当たったぞ！』

クツパが当選したと言う訳だ。

ブルルルルル　ブルルルルル

「メールだ……」「勝手に牢獄で行われていた籤引きによりクツパ復活」あいつが帰って来ても今更なあ……」

マリオは『何でやねん』と言いたげな顔をする。

その頃……

「おお、此処がタワーですか！先程マリオ殿から装置は20階に有ると書いてありましたからな！」

ワドルドゥは急いで塔へと駆け込む。

エレベータを待つワドルドゥなのだが、中々こない。

しかも30秒も待たされた……

「おお、来た！」

ワドルドゥは大急ぎでエレベータに乗り込む。

ウイイイイイン……

ピンポーン 20階です

ガチャッ！

アナウンスと共にエレベータの扉が開く。

「おお、あれですか！」

プー……ピッ

ワドルドゥ ミッションクリア 残り5人（クツパが復活したので）

「さあ、帰るじ……」

こうして、ワドルドゥはエレベータで降りて行ったのだった……

まだミッションをクリア出来ていないのは5人。

果たして、キノじいと出木杉を助ける事は出来るのだろうか！？

次回、ミッションの結末！

てな訳で続く

ミッション3 part2(後書き)

次回、1stステージ終了!

逃げ切り2ndステージへの切符を手に入れるのは誰だ!?

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4696x/>

逃走中in金の町

2011年12月11日20時56分発行